

事業名		代表者 所属	岡山大学農学部
17 KJ-012		代表者	学部長 門田 充司
樹脂封入標本を作ってみよう		開催地	岡山市
～手に取って観察できる標本の形		助成金額	10万円
活動概要	<p>日時 平成29年8月19日(土)10:00～15:00</p> <p>場所 岡山大学(岡山市)</p> <p>対象 小学生以上</p> <p>参加者(人) 申し込み:31名、当日参加者:24名 内訳(小中高の先生:2人)(小学生:12人)(中学生:2人)(大学生以上2人) (その他:6)</p> <p>内容 植物を中心とした標本の様々な形態と収蔵方法、扱い方などについて説明を行った後、樹脂封入標本作成の実習を行う。樹脂の硬化時間を利用して植物標本を用いた研究例を紹介し、標本が支える科学研究について知識を得るとともに、生物多様性について理解を深める。</p> <p>講演:5件</p>		

事業の目的・ねらい

生物標本は、あらゆる生物がいつ・どこで・どのように生きていたかの記録であり、地球や生命の歴史と現状を把握するために蓄積される人類の財産である。また、標本は分類学の証拠や命名の基準としての重要性のみならず、地球規模で進行する環境変化の証拠となったり、過去の標本からDNAを得ることによる進化学の研究に用いられたり、多面的な価値が見出されている。本事業では、様々な生物標本の形と収蔵方法やデータベースの紹介、生物標本の持つ様々な利用の方法を知ってもらい、生物標本を通して科学の面白さに触れてもらうことを目的とする。また、壊れにくく気軽に手に持って観察することができる樹脂封入標本を実際に作成することで、生物をより身近な存在として理解することの普及啓発を行うことを目的とする。

事業の概要

以下のスケジュールに沿って、岡山大学農学部にて行った(写真1)。

1. 植物と様々な標本の形(講演:写真2)
2. 封入標本作成1:標本の配置と二層目入れ(講演と実習)
3. 封入標本作成2:三層目入れ(講演と実習)
4. 森林・植物の研究紹介(講演)
5. 封入標本作成3:持ち帰った後の磨き方(講演と実習)

標本は主催者が用意した植物(草本、木本の葉や花)、小型の昆虫(ホソヘリカメムシ)の中から3種参加者が選び、各自3個の樹脂封入標本を作成した(写真3)。標本は和名・学名・作成日の書かれたラベルと共に封入した。樹脂は主催者が混合したものを配り、参加者が各自で標本の封入作業を行った。硬化にかかる時間を利用して、森林・植物の研究紹介を行った。

成果・効果

アンケートの結果、講師の講義や説明、学習のレベル、学習の方法・形態、学習のための情報提供、といった項目すべてにおいて、満足度が大きい(5段階評価の5)と回答した参加者が最も多かった。参

加者は小学生が最も多かったが、80歳代の参加者もあり、説明の方法に工夫を要したが、目的とした本講座の内容は概ね伝達できたと推測される。また、全ての参加者が積極的に講座に取り組み、実習の合間に活発な質問も出ていた。本講座は、講座で行った内容をもとに独自による学習につなげて欲しいという意図があったが、年齢を問わず今後も取り組みたいと言った声が聞かれた。



写真1：会場



写真2：講演を聞く参加者



写真3：標本を選ぶ



写真4：樹脂を流し込む